

広報資料

1 講演主題 : 「新たな国際情勢における日露の対外政策」(使用言語: 英語)
米国新政権誕生等を受けた新たな国際情勢の下、米露中の対外政策の見通しと、日本外交 (FOIP を含め) の方向性とその役割について考える。

2 主催 : 欧州大学 (European University at St. Petersburg)
(後援: 在サンクトペテルブルク日本国総領事館)

3 日時 : 3月10日(水) 10時~12時 (日本時間 16時~18時)

4 形式 : Youtube でのライブストリーミング配信

5 講演者

司会 : ゲヴォルグ・アベチキャン 欧州大学国際プログラム長

露側 : ニキータ・ロマーギン 欧州大学政治学部教授

: イヴァン・クリラ 欧州大学政治学部教授

: タチアナ・ロマーノヴァ 欧州大学客員教授

日側 : 高原明生 東京大学教授

: 竹中千春 立教大学教授

6 演目

司会開会挨拶 <ゲヴォルグ・アベチキャン 欧州大学国際プログラム長>

主催者挨拶 <ナタリア・マズール 欧州大学副学長>

主催者挨拶 <飯島泰雅 在サンクトペテルブルク日本国総領事>

第一部 新たな国際情勢の中のロシア (30分)

(1) 米国新政権誕生とロシア国内情勢による露米関係の展望<イヴァン・クリラ教授>

2月のバイデン米国大統領の外交演説では、米国はトランプ政権の融和的な対応から厳しい対露姿勢をとることを明確にした。ロシアでは、同時期に反政権活動家の逮捕とそれを契機とする10万人以上を動員する全露での反政権デモが起きた。本年9月に行われるロシア国家院選挙は今後のロシアの進む方向を決める政治的に重要な機会となる。ロシアの国内情勢が今後の露米関係にどのような影響を与えるのかを考える。

(2) 露中関係及びロシアのC I S諸国政策等の展望<ニキータ・ロマーギン教

授＞

世界は多極化が進展しているとの見方が一般的であるが、「一帯一路」等による中国と各国との貿易・経済協力の拡大が顕著となり、中国の政治的、経済的な影響力が巨大化するなか、ロシアは中国とどのような関係を構築するのか。ロシアが北極開発を進める中で、中国は北極においてどのような役割を果たそうとするのか。ロシアとCIS諸国との関係は、旧ソ連の遺産を共有しつつも、関係は様々である。巨大化する中国を背景に、ロシアがいかに独自の存在感を今後も発揮することができるのか注目される。

（３）ロシア・ＥＵ関係の展望＜タチアナ・ロマーノヴァ教授＞

ロシアと欧州は、経済関係は深まっていますが人権、民主主義、歴史問題では緊張関係が増している。ＥＵによる経済制裁とそれに対する露側の経済制裁は両者の関係にとって極めて重要な役割を果たしている。両者の関係改善の機会はあるのか。ＥＵとロシアの関係は、ロシアの対外政策全体においてどのような影響を持つのか。

第二部 新たな国際情勢の中の日本（３０分）

（１）米国新政権誕生による日米関係の展望と日中関係（含む露中）＜高原先生＞

バイデン政権では、前政権とは異なり、国際協調、多様性、持続可能性が重視され、大きく政策の転換が図られる。特に、米中の経済競争、人権、安全保障をめぐる対立が継続する可能性を考慮すれば、日本は米国との同盟を強化しつつ、同時に中国とも経済やその他の分野での交流を進めるという難しい課題に直面している。価値観や海洋安全保障を巡っては競争関係にあるものの、両国が気候変動や感染症対策と言った二国間だけでなくグローバルな問題で協力していくことは不可欠である。

（２）その他の大国との関係の展望（含むインド、FOIP）＜竹中先生＞

日本は「自由で開かれたインド太平洋」という外交コンセプトに基づき、アジアとアフリカの２つの大陸と、太平洋とインド洋という２つの大洋を一体としてとらえ、法の支配を含むルールに基づく国際秩序の確保、航行の自由、紛争の平和的解決、自由貿易の推進を通じ、この地域の平和、安定、繁栄の促進を各国に働きかけている。この地域の新興国であるインドは、従来の非同盟、全方位外交を維持しつつも、今や日本のグローバルな戦略的パートナーである。日印両国は「日米豪印」といった枠組みを通じ、特に中国の軍事プレゼンスの拡大のような新たな国際的な挑戦に対応することを目指している。パワーシフトの時代におけるインド太平洋地域の平和共存と協力関係への道を探る。

（３）新たな国際情勢の中の日露関係＜高原先生＞

日露は近年、首脳間の交流が活発に展開され、経済や文化の交流拡大によりあらゆるレベルで関係が発展している。日本にとり最重要課題は、ロシアとあらゆる分野でアジア太平洋地域のパートナーとしてふさわしい関係を構築することである。これは平和条約を締結するための政治関係の促進、そして経済、安全保障、文化・人的交流等の分野での協力関係を発展させることである。新たな国際情勢の中で日露関係はいかなるチャレンジに直面するのであろうか。

第三部 パネルディスカッション（３０分）

質疑応答（２０分）

司会閉会挨拶＜ゲヴォルグ・アベチキャン 欧州大学国際プログラム長＞